

## 「保育園サーベイランス」を県単位で導入した場合の活用例 感染症拡大防止に向けた保育所との取り組み

茨城県保健福祉部子ども家庭課主事 伴場 啓人

### 1 はじめに

「今日は傘を持って行った方が良いかな。」「今日は冷えるから一枚羽織って行こうか。」

最近では、近所の天気から外出先の天気まで、インターネットを使えばリアルタイムで確認することができるようになりました。かつては新聞やテレビのニュースをとおして、決まった地域の決まった時間の天気しか見られなかったことに比べれば、とても便利になったものです。『保育園欠席者・発症者情報収集システム』（以下、「保育園サーベイランス」という。）は、いわば天気予報の感染症版です。突然雨が降ってきたとき、その雨がしばらく続くのか、それともすぐに止むのか、天気予報を参考にすれば適切な行動を取ることができます。

保育所で園児が嘔吐したとき、近隣地域で感染性胃腸炎が流行していれば、「もしかして」と疑い、適切な対応を取ることができるでしょう。もちろん、保育所の先生方が日頃から衛生管理に注意を払われていることは承知していますが、さらに保育園サーベイランスを活用して、その地域に合った、最善の対応を検討していただければと思います。

保育園サーベイランスの特長は、記録・連携・早期探知の3点に整理できます。保育所では毎日、先生方が園児の出欠状況や体調を「記録」しています。では、その貴重な「記録」を保育所全体で、またはデータとして活かしているのでしょうか。「連携」や「早期探知」はいかがでしょうか。特に「連携」や「早期探知」は、インターネットを活用することのメリットといえます。時間と場所を問わず、地域ごと情報をリアルタイムで確認することができるのです。

一方で、保育所では「入力」という作業が増えることとなります。保育所の先生方は朝の出迎えから夜の見送りまで業務に追われる毎日かと思います。本来、「入力」は記録・連携・早期探知の特長を活かすための手段なのですが、「入力」自体が目的になりかねません。そうなってしまうと、新たな作業に不安があるかも知れません。また、保育園サーベイランスの導入・活用を希望する保育所に対して、市町村がレクチャーするとなると、行政としても新たな業務となります。

このような不安を解消するために、当課が行ってきた取り組みが参考になれば幸いです。

## 2 保育園サーベイランス導入の第一歩

まずは2年半前、厚生労働省から保育園サーベイランスの活用依頼に関する通知があった平成22年8月に遡ります。これを受けて、当課では9月に市町村向け説明会を開催し、全県で取り組むという方針により、保育園サーベイランスのログインに必要なIDとパスワードを配付しました。ところが、市町村・保育所に具体的な導入時期を明示せず（実際には説明会の時から導入できたのですが）、細かなフォローを行わなかったため、導入した保育所は10箇所弱でした。

その後、平成23年3月に東日本大震災が発生し、保育所も市町村も新たな取組みに時間を割く余裕などなくなっていました。幸いにも、茨城県の保育所では、震災により命を落とした園児、職員はいませんでした。命が助かれば、次は健康です。毎日の業務が忙しくても、感染症発生のリスクは待ってくれません。

そこで、震災から半年が経過した平成23年9月、市町村の保育主管課に対して、国立感染症研究所（以下、「感染研」という。）の研究者から保育園サーベイランスの意義と導入することの重要性を説明していただいたのです。しかし、結果から見れば、この説明会も不十分なものでした。紙資料を用いての説明会であったため、保育園サーベイランスがどのようなものか、具体的にどのように入力し、どのような情報が得られるのか、十分に伝えることができなかったのです。そのため、保育所・市町村の負担が増えるという不安の解消にも至らなかったのだと思います。説明会を主催している県が不十分だと感じているなかで、市町村が保育所に周知しても問題意識を共有することは難しかったのでしょう。平成23年12月末現在で、県内の導入率は35%（489箇所中170箇所）にとどまりました。

そのような状況でも、問題意識を共有することができた市町村は、独自に、または地域的にまとまって、感染研から研究員を招き、平成23年度中に実際にパソコンを操作しながらの端末操作研修会を開催しました。これらの市町村では、導入率がほぼ100%に達しました。

当時を振り返れば、県がすべての保育所に対して説明を行うのは極めて困難だと決め付けてしまっていたのかも知れません。この考えが、保育所への導入を遅らせてしまった面もあると思います。

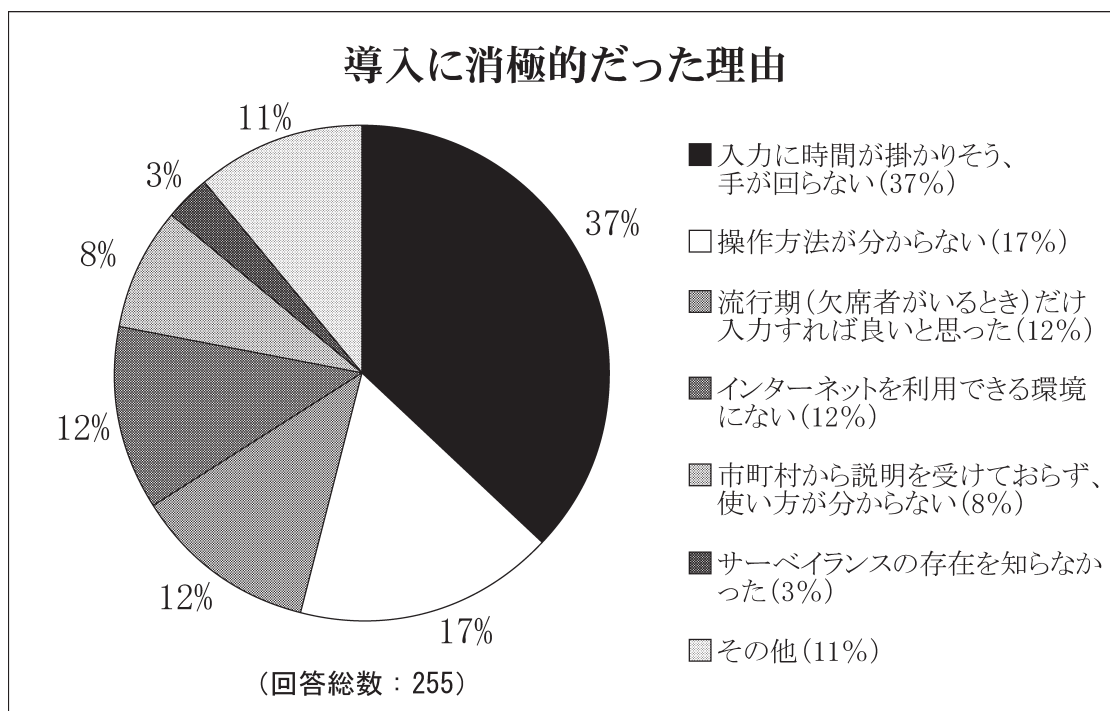
## 3 保育所での導入率向上を目指して

その後も機会を捉えては、保育所の施設長向けの行政説明の際に保育園サーベイランスへの理解を求めたり、県内の感染症流行状況をお知らせしたりしましたが、なかなか導入の輪を広げることができませんでした。

保育園サーベイランスには、地域の正確な情報をリアルタイムで入手できるというメリットがあります。しかし、実際にこのシステムを利用してみなければ、このメリットを感じることはできません。

一方で、メリットがなければ新たな作業に取り組もうとする動機付けが働きません。文書を送付して保育所に導入を促すことに限界を感じていました。行政文書はどうしても表現がかたくなってしまう、一方通行のコミュニケーションです。それでは保育園サーベイランスの説明を十分に行うことができません。やはり、500箇所近い保育所があっても、文書を送付するだけでなく、対話をとおして保育所の先生方の理解を得ることが重要だったのです。

こうして平成24年10月から11月にかけて、すべての保育所を対象とした端末操作研修会を開催するに至りました。開催に当たり、未導入の保育所がなぜ消極的なのかを探り、その点を解消するように努めました。



その結果、基礎編と応用編を組み込んだ全9コマで延べ455人の保育所の先生方に御参加いただき、平成24年12月末現在で、導入率は60%を超えて(500箇所中310箇所)います。

先生方の御理解により、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行前に問題意識を共有し、保育園サーベイランスの導入の輪を広げることができました。重要なのは、保育園サーベイランスで得られた情報を活用することであり、入力には目的ではありません。そのため、導入率だけを見て喜ぶことはできませんが、導入率が高いということは、保育園サーベイランスに接し、活用して下さっている保育所も多いことを意味しているため、地域的な感染症拡大防止に役立っていると考えられます。

#### 4 なぜ導入に力を入れたのか

現場の先生方は、近隣の小学校に問い合わせたり、送迎の際に保護者に聞いてみた

り、かねてから感染症流行の情報収集に努めてきました。それでもなかなか知りたい情報にスムーズに辿り着けない。ベテランの先生なら長年の経験で分かることもあるでしょう。ただ、その先生が不在のときに限って突発的な発生があるものです。

そのような声を聞いていたので、自分の地域の正確な情報を、リアルタイムに無料で簡単に手に入れることができるというのは素晴らしいと感じたのです。茨城県の場合、すべての小中学校、高等学校、それに多くの幼稚園ですでに「学校サーベイランス」(学校欠席者情報収集システム)の導入・活用が進んでいたことは保育園サーベイランスの導入促進に大きな追い風となりました。

また、保育園サーベイランスには、保育所ごとの過去の欠席者情報などを分析し、流行の兆しをお知らせする「アラート」機能が備わっています。この機能を用いると、地域の流行状況や欠席者数に加え、各保育所“独自”の流行の兆しから感染症流行の早期探知が可能になります。

このように、地域の流行状況にアンテナを張りつつ自園の流行の兆しを捉えることで、初発例の見逃しを防ぎ、感染症拡大防止に大きな効果を発揮することができます。

## 5 今後の課題、そして地域への展開

保育園サーベイランス導入までの経緯や当課の取組みを説明してきましたが、今後の課題もあります。

行政内部での課題として、感染症集団発生時における保健所への詳細報告など、保育所の二度手間や事務の煩雑さを軽減すべく、報告・連絡方法の見直しを検討します。

(現在でも、同一の感染症の患者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合の保健所等への報告は、保育園サーベイランスへの入力をもって代えられます。)システムについては、疾病の追加や入力の簡略化、認定こども園への円滑な移行など、保育所や市町村から提案される要望や改善案を感染研と調整し、使い勝手の良いものにしていく必要があります。

それから、保育所の先生方には毎日の入力を習慣としていただきつつも、保護者支援や子育て支援に活かしていけるよう、定期的にフォローアップの研修会を開催していきたいと考えています。風疹や伝染性紅斑などの流行状況は、妊娠している保護者に対し非常に重要な情報になります。一つ屋根の下で生活している兄弟姉妹への感染拡大を防ぐという視点からも、保育所での感染症流行を具体的にお知らせすることは有益です。なかには、保育所の先生方の創意工夫が動き出し、保護者への一斉メールで感染症の流行を知らせている保育所もあります。

毎朝天気予報を見るのと同じように、地域の感染症の流行状況を確認してみてください。